

がまかつライブラIIの詳細

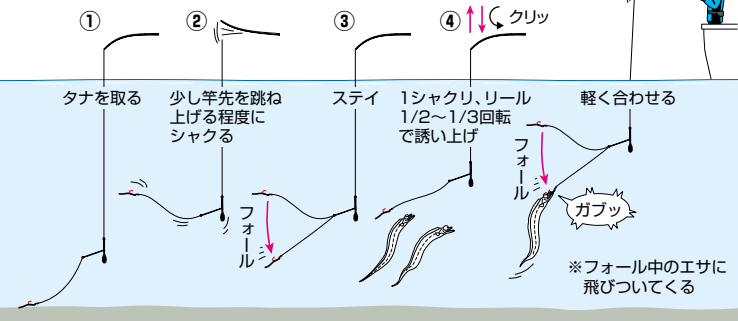
●東京湾タチウオの定番ロッド、ライブラのDNAを受け継ぎ、8年ぶりにモデルチェンジしたライブラII。調子、スペックも含めゲームロッドとしての有効性も注目されている。カーボンチューブラの本体、高感度、高強度のカーボンソリッド設計は初代モデルそのままに、バットパワーをややマイルドにすることで、さらに多種多彩な釣り物に対応できるようになった。初代より購入しやすい価格設定としている点も特長だ。今回三石さんが使用したMHは硬めのモデルながら、穂先の柔軟性とバットパワーを生かした攻撃的な調子。イサキ、コマセ五目、ヒラメ、根魚などにもおすすめできる。

タイプ	標準全長 (m)	希望本体価格 (円)	標準自重 (g)	仕舞寸法 (cm)	使用材料 (%)	モーメント	継数 (本)	先径 (mm)	錘負荷 (号)
L	1.8	24,500	130	136.0	C99.5 G0.5	5.5	2	1.00	10~50
ML	1.8	25,000	132	136.0	C99.5 G0.5	5.6	2	1.05	20~60
M	1.8	25,500	136	136.0	C99.5 G0.5	6.0	2	1.10	30~80
MH	1.8	26,000	143	136.0	C99.5 G0.5	6.8	2	1.15	40~100

※C=カーボンファイバー、G=グラスファイバー。モーメント=標準自重(kg)×竿尻から重心までの長さ(cm)。価格はすべて税抜き

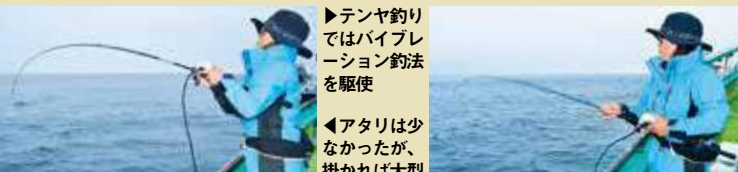
▶ノーテンション釣法は竿先を跳ね上げるような釣り方なので、やや硬めの竿が向く

ノーテンションフリーフォールの原理



▶テンヤ釣りではバイブレーション釣法を駆使

◀アタリは少なかったが、掛かれは大型



▲船中最大は125センチ級



▲走水~大津沖のタナ25~40メートルを攻めた
◀テンピン釣りではライブラIIが定番

★テンピン釣りでは指幅3~4本の夏タチらしいサイズが多かった

LIBRA II MH180

夏タチ本番! ライブラIIの出番

三石 忍

テンピン、テンヤで釣りまくる

★テンピン仕掛けて釣りまくるが、小型連発に思わず苦笑

★ドラゴンサイズの引きもライブラIIのバットパワーが余裕でかわす

【ケン付タチウオ ST-R ワイド1本仕掛】
●取り出してすぐに使用できる仕掛けセットも発売。赤とナノスムースコートの2アイテムにそれぞれ1/0、2/0、3/0の3種、ハリス7号2mで2組入り、メーカー希望本体価格340円。

【ケン付タチウオ ST-R ワイド】
●三石さんがテンピン釣りに使用したのが新製品。フトコロがやや開いた形状は、ハリ掛かり率を高め、ハリを飲まれにくくするだけでなく、オートマッチックに掛かる特性も備える。赤とナノスムースコートの2アイテムにそれぞれ1/0、2/0、3/0の3種。各7本入りでメーカー希望本体価格400円。

★ライブラIIは4アイテム。釣り物、仕掛け、釣り方などによりオールマイティに使えるライトポートロッドだ

●東京湾のタチウオはすでに周年の釣り物、一年でもっとも数釣りの期待が持てるのがこれからのシーズン、いわゆる「夏タチ」である。タチウオといえば三石忍、タチウオロッドといえばライブラII。まだシーズンには少し早い7月上旬、絶妙のタチウオコンピで釣行した模様をお届けしよう。

◀エサはコノシロの切り身。回転しないように真っすぐ付ける

選ぶといいたる。ライブラIIは4アイテムあるので、好みや釣り方で選ぶといいたる。ライブラIIは4アイテムあるので、好みや釣り方で選ぶといいたる。ライブラIIは4アイテムあるので、好みや釣り方で選ぶといいたる。

反応はビッシリ出ているものアタリが小さかったり、ワンバイトで終わったりということも多かったが、三石さんは大型メインに数を重ね、トータル21本でフィニッシュ。もちろん、この日の竿頭だった。「ライブラIIはもっと浅場で数が釣れるようになれば、MLが活躍します。ノーテンションやテンヤでも釣りたいという人はMや今回使ったMHがおすすすめです」と三石さん。ライブラIIは4アイテムあるので、好みや釣り方で選ぶといいたる。

命ポイントである。三石さんはハリのサイズを上げ大型に備える。ところが、掛かってくるのは指幅4本クラスの中型まで。テンヤ釣りで大型を上げた同船者を見て、ついに三石さんは仕掛けチェンジ。取り出したのは50号のテンヤである。「ライブラIIでのテンヤ釣りは、少しオモリを重くして穂先を曲げ込み、穂持から胴のパワーで釣ったほうがいいですね」と三石さん。

「この釣り方だと、多少硬めの調子のほうが仕掛けがよく動きます」と言いながら早くも竿を曲げる。上がってきたのは指幅3本クラスの小型だが、いかにも夏タチらしいサイズと言え。船中でもポツポツと指幅3~4本クラスが上がってくるが、三石さんが釣るペースはかけ離れている。ライブラIIで東京湾タチウオのペースを築いたともいえる三石さん、久しぶりとはいえない事なばかりのテクニクである。

9時を過ぎ、船は大津沖に移動。ここは昨日、中大型が乱舞した目下の本命よく誘い上げていく。「この釣り方だと、多少硬めの調子のほうが仕掛けがよく動きます」と言いながら早くも竿を曲げる。上がってきたのは指幅3本クラスの小型だが、いかにも夏タチらしいサイズと言え。船中でもポツポツと指幅3~4本クラスが上がってくるが、三石さんが釣るペースはかけ離れている。ライブラIIで東京湾タチウオのペースを築いたともいえる三石さん、久しぶりとはいえない事なばかりのテクニクである。

乗船したのは東京湾奥浦安の吉野屋タチウオ乗合はテンピン、テンヤ釣りともオーケーとのことで、三石さんはテンピン釣りの仕掛けに加え、しっかりとテンヤも持参している。最強コンビのライブラIIには4アイテムあるが、前日までの状況、使用オモリ(60号)、そして何より得意の釣り方とテンヤ釣りを視野に入れてMHをチョイスした。7時に発船し、1時間強走って到着したのは走水沖の40メートルルダチ、船長の指示は海面から30~35メートルだった。さっそく投入した三石さんは、ノーテンションフリーフォールで小気味よく誘い上げていく。「この釣り方だと、多少硬めの調子のほうが仕掛けがよく動きます」と言いながら早くも竿を曲げる。上がってきたのは指幅3本クラスの小型だが、いかにも夏タチらしいサイズと言え。船中でもポツポツと指幅3~4本クラスが上がってくるが、三石さんが釣るペースはかけ離れている。ライブラIIで東京湾タチウオのペースを築いたともいえる三石さん、久しぶりとはいえない事なばかりのテクニクである。